

R6(2024)年度 第3回 須坂市地域公共交通会議 議事録

【日時】 2025年2月28日(金)午後2時00分から4時00分

【場所】 生涯学習センター 3階ホール

【議事概要】

1. 開会

2. 議事

(1)協議事項について

- ① 市内公共交通の見直しの詳細について
- ② 利用促進策の詳細について
- ③ 乗合タクシー受付時間の変更について

(2)報告事項

- ① 湯っ蔵んど バスで野菜直売会(貨客混載)について
- ② バスこども無料デーについて
- ③ 屋代須坂線運賃改定(案)に関する協議結果について
- ④ すざか市民バス・すざか乗合タクシーの利用状況について
- ⑤ バスICカードくるるの利用状況についてその他

3. 閉会

[内 容]

1 開 会

欠席者の報告。

《出席14名（欠席11名）》

会議は公開。議事録作成のため、会議内容を録音。

2 議 事

(1) 協議事項

①市内公共交通の見直しの詳細について

【事務局：説明(資料1および資料2)】

【アドバイザー】

停留所の名称変更について。西回りメイン化に応じてバス停名をわかりやすくする変更であり、それ自体は意欲的でよいと思われる。しかしドラッグストアの店舗名を停留所名とした場合、その店舗自体が変更になった場合にどう対応するのか。店舗が変更となった場合などの運用基準を設けるべきと考える。

大型店舗は別だが個人商店やドラッグストアなど、頻繁に入替えとなった場合に変更コストがかさんでくる。運賃表示機や車内放送は軽微な変更ではない。私の参加する公共交通会議のバス停では、店舗から苦情がでたケースもある。管理が行き届くかどうかとも変更の基準として考えていくべきだろう。

【事務局】

恒久的にあるかどうかは、店舗の規模などによっても変わると認識する。それを踏まえて、店舗名については変更対象とするか再検討していきたい。

【委員】

バス停のネーミングライツをやった時、他自治体などのヒアリングでは副呼称のような形でバス停を設定したところもあった。

【委員】

駅(電車)の名称変更はかなり大変な印象がある。バス停は規模が違うと思うが、わかりやすいバス停名称は利用者にとっては大事な要素だと思う一方で、バス停が変わりすぎてしまうのもまた利用者の混乱に繋がると思われる。

【事務局】

今まで通りの停留所名を残し、副呼称として店舗名を使うのはいかがか。

【会長】

それによって変更の負担が減るということでよいか。

【事務局】

車内放送などは、あくまで今まで通りの名称を使うため、変更の手間がない。副呼称で表す紙媒体やバス停の表記は、店舗が変更した際に、応急的に目隠しなどで対応できると考える。

【アドバイザー】

10月の再編に合わせて変更していくとすると、3か月前までの変更申請なので、6月頃には内容を確定していく流れかと思う。次回の会議には再編内容のすべてが固まり協議する流れであることを考えると、1つ1つの停留所を協議していくのは時間的に厳しい。

例えば、「市役所西」という停留所名は「須坂市役所西」に明らかに変えるべきという停留所は存在するので、新しい名称と副呼称を用いるべき停留所について区別していくべき。小規模店舗などがランドマークとしてある場合は、副呼称を用いることで変更のコストは少なく済む。

【委員】

利用する方が、どんな人なのかを意識して停留所名称の検討をしていくことが良いと考える。「田中本家博物館西」のほうが、観光客にはわかりやすくてよい。

【会長】

「住宅前」という停留所は、どこに停留所があるかわからないので、変更していく方向がよいと考える。事務局には副呼称を用いるのか、そのままランドマークを名称とするのかを検討していく方向性をお願いしたいがよろしいか。

➡ 異議なし

②利用促進策の詳細について

【事務局・説明(資料1)】

【アドバイザー】

スケジュールについて。利便増進実施計画を活用していくには、公共交通計画の明記が必要になってくる。計画について運輸局との事前調整をやっているのか。

【事務局】

事前に連絡はしているが、会議承認後に計画の概要を相談する予定だった。

【アドバイザー】

外形的に利便増進実施計画に適用が見込まれるのかを確認しないと、時間的に厳しい。3か月の標準処理期間を考えると早めに取り組む方が良い。

【委員】

利便増進実施計画について、交通ネットワークの利便を増進していく事業が該当する。例えば運賃の見直しやダイヤの改変など。この事業を活用することで、フィーダー補助の条件緩和であったり、補助算定方法が変わったり、また個別メニューで補助を受けられたりする。

認定基準に沿った内容かどうかは現時点ではわからないので、今後ご相談をいただきたい。県内では、松本市と木曽地域が本事業を活用している。

【事務局】

周遊チケットについては、ネーミングによって販売に影響することもあると考えられるのでネーミングについてもアイデアをいただきたい。例えば、重伝建に指定された「蔵のまち」といった言葉や、周遊フリーパスなど、これ1つで観光を網羅できるようなイメージがあるとよいと考える。

【委員】

ぜひ、蔵のまちを回遊できるような内容をお願いしたい。高校生の要望でも飲食店が多く挙げられている。飲食店は商工会議所や観光協会と連携をとって取り組んでほしい。

【事務局】

商工会議所については、事前に連絡をとっており、連携について良い返事をお聞きしている。周遊チケットについては観光的側面が強いので、周遊でき魅力的な飲食店を結びつける特典をつけていきたい。

【アドバイザー】

誰に売りたいのか、どのような人が買うのか。イオンモールに来る層は周遊チケットを買わないだろう。季節によっては桜や果物などで、こうした周遊チケットが売れると思うが、ターゲットを考える必要がある。

長野駅からバスでイオンモールまで来ると、片道550円、往復で1,100円である。一方で周遊チケットは1,000円という金額が魅力で、安く来ることができる部分を押し出し「電車で来る人」を想定していくべき。

他にも「24時間券」も使える要素となる。24時間券だと、ホテル宿泊後の帰りの公共交通利用が想定できる。インバウンド需要により長野駅前のホテル価格は上がっており、軒並み20,000前後になっていることから、出張利用などの層がこのチケットを使うという方向もよいだろう。つまりターゲットは鉄道を使う層だと思われ、イオンをきっかけとするのは良いが、それをメインで考えると見誤る可能性がある。

乗り放題通学定期について。もともと月9,000～10,500円で定期を買っている層が多いわけで、その金額とあまり変わらず乗り放題で定期が買えるという視点。今の収入を維持する考えでは9,500円という金額だが、その金額をどう考えるか。

【委員】

イオンモール沿線の既存2路線は、現在日曜日運休となっているが、開業時には本数は増えるということか。

【委員】

日曜運休については、復便を想定している。またイオンモール内にもバス停を設置していく方向。ほかにも回送便を活用してイオンモールとの接続を増やしていく計画であるが、具体的なダイヤまでは調整中である。

【委員】

月9,500円については、説明から妥当な金額と考える。ただ保護者の立場とすると安ければより良いという印象。

乗合タクシーについては、電話予約では高校生は利用しにくいと思う。スマホで予約できた方が使うと思われる。

【事務局】

9,500円については、特典をつけることで、よりお得感を出していきたい。

乗合タクシーの予約方法については、ユーザーと事業者双方の負担軽減を考慮し展開していきたい。現在、新KURURUの受付体制変更をやっているが、現場は手一杯な状態。その状態にあることから、アプリ予約によるシステム導入が必ずしも現場の効率化に寄与するとは限らない。人員不足に寄与するようなシステム導入は研究をしていくべきだと思えるが、まずは認知度を高めていくことが優先と考えている。

最近も、村山駅から乗合タクシーを使い、通学帰りと思われる利用実績があった。このように認知をしてもらえれば利用してくれる層もいる。事務局としては、まずは認知度を上げて、そこから投資を考えていくという流れを想定している。

【会長】

利用促進策は、意見を踏まえて方向性については承認でよろしいか。

➡意義なし

③乗合タクシー受付時間の変更について

【事務局・説明(会議資料P5)】

【アドバイザー】

先にでたスマホ予約についてだが、スマホ予約では、早いもの勝ちになるので実質的に前日までに予約が埋まるというのは他の自治体ではよくある。なので、利便性的にはそこまで電話と変わらない部分もある。ただ、受付時間を午後3時に変更することは少し早い印象ではある。よく利用されている方が、前日の午後3時で対応できるのであれば問題ないと思うが、そこは注視しておくべき。

【委員】

キャンセルの対応について。土日の受付がないと、週明け月曜のキャンセル受付はできないと思うが、どうする予定か。

【事務局】

事務局としてもそこは懸念事項でして、まずは早めに連絡をいただく旨を利用者に周知するとともに、それが難しい場合は「不乗扱い」(無断キャンセル)という扱いで、事業者と調整をしている。

➡ 意義なし

(2) 報告事項

①湯っ蔵んどでバスで野菜直売会(貨客混載)について

【事務局説明。(会議資料P6)】

➡ 意見なし

②バスこども無料デーについて

【事務局説明。(会議資料P7)】

【会長】

想定と比べても利用者は少ないのか。

【事務局】

前回の子ども無料デーと比較しても半分以下なので、少ない印象。周知の方法については別の方法も検討していきたい。

③屋代須坂線運賃改定(案)に関する協議結果について

【事務局説明。(資料3)】

➡ 意見なし

④すざか市民バス・すざか乗合タクシーの利用状況について

⑤バスICカードくるるの利用状況について

【事務局説明。(会議資料P8－12)】

【委員】

豊丘のルート変更の場所で、今の利用はないけど、5, 10年後の高齢社会を考えてどうなるかを考えてもらいたい。区長会や市議会などにもっと話題提供してもらいたい。公共施設の廃止についても周知が足りていないがゆえに意見がでないこともある。

そもそもバス路線が変更になるということを知らない人が多いのだと思う。なるべくわかりやすく、良いこともたくさんあるので知らせてほしい。

【アドバイザー】

重要な視点は、地域のみなさんが「自ら支える」という視点。この視点がないと、ほかの路線も削るようになってくる。減便しなくてよいなら減便はしたくない。その地域で乗る人がいないから、こうした提案になっている。

秩父市では、地域で困る人が中心に、それを行政が応援する形で交通を確保している。診療所のバスを活用してバスの補完をしているが、運休日には移動ができない課題があった。そこで地元の人がドライバーとして手を挙げるという取り組みがあり、国交省の補助金で財政負担する仕組みがあるので、それを活用して運営している。

ですから、もし委員のみなさんで、この人に交通会議を聞いてもらいたいという人がいれば、ぜひ傍聴に呼んでもらいたい。

また、環境も大きく変わっている。10年前の70歳台女性は免許保有率が20%であった。現在は50%台なので、高齢者ほど公共交通を使わず車を利用しているのがわかる。

市民バス(明徳団地線)のくるる昼割の利用者状況をみても、去年のデータから減っているのがわかる。つまり高齢者が減っている状況。こうした状況から、どのような移動が求められているのか、市がまちとコミュニケーションをとっていくのも大事である。

【アドバイザー】(全体をまとめて)

路線再編は市民や議員のみなさんに関心をもってもらうチャンスなので、それをしっかり活用していくべき。

3 その他

4 閉会